

価値を実感できる サービスの開発へ！



取締役社長 柴田 弘

近年の ICT・AI の社会実装の進展は私たちのライフスタイルを大きく変えています。人々は買い物をオンラインで楽しむようになりました。カーシェアリングサービスは“車の所有から利用へ”という流れをつくりだし、都心部においてはマンション駐車場の空きスペースが増えています。テレビ画面で楽しむのは動画配信サービスという人が増え、地上波・BS 放送の視聴時間が減少しているそうです。Web 会議サービスは、コロナ禍を契機としてリモートワークの急速な広がりとの触媒となり、鉄道利用者の減少など毎日の通勤風景に変化をもたらしました。

製造・生産現場では早くから ICT の活用による省力化や生産性向上が進められてきましたが、その保守メンテナンスにおいても航空機エンジンや建機のアフターサービス、B to B*に特化した E コマースなどの分野でデジタル技術を応用した先進的なサービスが登場しています。ただ、資本財市場におけるサービスのイノベーションとその普及は、消費財市場で起こっている変化と比べていささか緩やかであると私には思えます。設備メーカーは事業構造のサービタイゼーションに取り組み、デジタル技術を駆使したサービスの革新が各社・各業界で試みられていますが、広く浸透する段階にまで至っていません。この技報で紹介させていただいているように、当社においてもデジタル技術をサービスに取り入れるべく開発を進めており、すでにお客様へ提供を始めているサービスもありますが、まだまだ存在感のあるビジネスには育っていません。ICT や AI に一層磨きをかけることはもちろん不可欠ですが、お客様にそのサービスによる価値を認めていただけていないのは、“サービスのコンセプトや設計”

にも課題があると思われれます。効率化という供給側の論理ではなく、すべてのサービスは設備を使うお客様の利益に加え、喜びや安心、便利そして感動へと通じていかななくてはならないはずですが、現状においては、そのための何かがデジタルの中に、あるいはデジタルの先に欠けていると認識しています。

ニチゾウテックは人と社会に役立つ「総合技術サービス企業」として、設備システムの設計・製作・建設およびその保守を通じ、お客様へ高度な技術サービスを提供することを使命としています。当社は1975年に日立造船非破壊検査(株)として設立され、その後、日立造船グループのメンテナンス会社、技術研究所の一部との統合(1986年)や(株)エイチイーシーエンジニアリングとの合併(2014年)を経て、①技術コンサルティング ②メンテナンス ③エンジニアリングの3つの領域で事業の伸長に取り組んできました。設立時から研究、技術開発を指向し、ICT や AI の応用についても早くから取り組む一方、現場エンジニアやサービス・メカニカルスタッフの層も厚く、「現場を持つ ICT 企業」と自負しています。本技報が皆様のお役にたつとともに、お客様に喜んでいただける価値あるサービスの開発に向けて率直なご提言、支援・協働のお申し出をいただければこれに勝る喜びはありません。

最後になりましたが今度とも当社に対する変わらぬご愛顧、お引き立てをお願い申し上げます。

* Business to Business